



(写真) @EdmundoGU “ゴンサレス候補 大統領選の敗北合意書への署名を強要されたと説明”

2024年9月18日(水曜)

政治

- 「[ゴンサレス候補 敗北認める合意書に署名？](#)
～マドゥロ政権の圧力による署名強制を主張～」
- 「[西 PP 強制合意を許したサンチェス政権を批判](#)
～サンチェス政権 PP のモラル欠如を批判～」
- 「[スペイン上院 ゴンサレス候補の当選を承認](#)」
- 「[検察庁 亜ミレイ大統領、亜治安相を指名手配](#)」
- 「[ペトロ大統領 ELN との和平交渉無期限停止](#)」

経済

- 「[インド大使 マドゥロ政権外交官と面談](#)」
- 「[国会 中国投資保護法の第1セッション承認](#)」

2024年9月19日(木曜)

政治

- 「[EU 議会 ゴンサレス候補の当選を承認](#)
～国会 EU に関する議題をキャンセル～」
- 「[ロドリゲス議長 合意書署名時の録音を公表か](#)」
- 「[セバジヨス元内務司法相 正式に在中国大使](#)」

経済

- 「[デルシー副大統領 非石油部門輸出の責任者](#)
～輸出組織代表はカベジヨ内務司法相の娘～」
- 「[Fedecamaras 24年 GDP 成長率を下方修正](#)」

社会

- 「[カラカスの自動車強盗団逮捕 犯行は主に日中](#)」

2024年9月18日（水曜）

政治

「ゴンサレス候補 敗北認める合意書に署名？
～マドゥロ政権の圧力による署名強制を主張～」

野党統一候補として大統領選に出馬したエドムンド・ゴンサレス候補は、スペインに亡命した（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1113](#)」）。

9月18日 ホルヘ・ロドリゲス国会議長は、ゴンサレス候補は亡命に当たり、大統領選の敗北を認める趣旨の合意書に署名していたと発表した。

この合意書は、ゴンサレス候補が亡命した当日（9月7日）にスペイン大使公邸で書かれたもので、

「私は憲法規定に準じて常に司法当局の決定を認識し、従う意思がある。前述の選挙管理委員会の判決を含め、私はこれに同意しないが、共和国の最高裁判所の決議として受け入れる」と書かされている（以下、該当部分）。

Como es de su conocimiento, en fecha 22 de agosto de 2024, la Sala Electoral del Tribunal Supremo de Justicia dictó una decisión en respuesta al recurso contencioso electoral interpuesto por el Presidente de la República Bolivariana de Venezuela, Nicolás Maduro Moros, ante la controversia suscitada a partir del proceso electoral del 28 de julio del corriente.

Señor Presidente de la Asamblea Nacional,

Siempre he estado y seguiré dispuesto a reconocer y acatar las decisiones adoptadas por los órganos de justicia en el marco de la Constitución, incluyendo la precitada sentencia de la Sala Electoral, que aunque no la comparto, la acato por tratarse de una resolución del máximo tribunal de la República.

また、「平和的な政治対話を確立するために自分はベネズエラを去る」「公式・非公式に関わらず、私がベネズエラ政府の公権力の代表になろうとすることはなく、国外で行う政治活動は限定されるだろう」とも記載されている（以下、該当部分）。

Dejo constancia de mi compromiso de que mi actividad pública fuera de Venezuela será limitada. No pretendo en ningún caso ejercer representación formal o informal alguna de poderes públicos del Estado venezolano. Seré absolutamente respetuoso de las instituciones e intereses de Venezuela, y siempre apelaré a la paz, el diálogo y a la unidad nacional.

Adicionalmente, con el propósito de contribuir a alcanzar ese clima de convivencia y tranquilidad que todos anhelamos, me llevará a guardar la debida prudencia, moderación y respeto en mi accionar en el ámbito público.

この合意書が公開されたことを受けて、ゴンサレス候補はビデオメッセージを発信。

「合意書はスペインへ亡命する条件として、マドゥロ政権に強要されたもの」「合意書に署名しなければどうなるか分かっていた」「私の同意なく署名を強制された合意書であり、この合意は無効である」と主張。

「数百万人のベネズエラ国民の民意を代表しベネズエラの大統領に就任することを放棄できない」との見解を示した。

ゴンサレス候補によると、合意書はホルヘ・ロドリゲス国会議長、デルシー・ロドリゲス副大統領の立会いの下、スペインの Ramón Santos Martínez 大使公邸で署名したという。

「西 PP 強制合意を許したサンチェス政権を批判 ～サンチェス政権 PP のモラル欠如を批判～」

今回の合意書が暴露されたことを受けて、スペイン側でも政治問題になっている。

問題になっているのは、合意書がスペイン大使公邸で署名されたという点。この合意書の署名には、スペインの Ramón Santos Martínez 大使も同席していた。



つまり、見方によっては、

「サンチェス政権は、ゴンサレス候補の意志に反した合意書の署名を容認した」「マドゥロ政権による圧力に対して、仲裁をしなかった」「マドゥロ政権の共犯者になった」と言うことも出来る。

この点について、スペインの右派政党「国民党 (PP)」はサンチェス政権 (左派「スペイン社会労働党 (PSOE)」) の対応を強く批判。

José Manuel Albares 外相に対して、今回の経緯について説明を求めると同時に Ramón Santos Martínez 大使の対応についての調査を求めた。

この批判を受けて、サンチェス政権の María Jesús Montero 副大統領は、PP を批判。

「サンチェス政権の対応は欠点のないもので、スペイン政府がゴンサレス候補を支援しようとした意思を疑うことは決してできない」「PP の批判は完全に攻撃的なもので、事実を反映していない」「マドゥロ政権の共犯者という PP はモラルが欠如している」と反論した。

「スペイン上院 ゴンサレス候補の当選を承認」

9月11日 スペイン下院議会は、サンチェス政権に対して、ゴンサレス候補をベネズエラの当選大統領と認識するよう要請する決議を承認した ([「ベネズエラ・トゥデイ No.1115」](#))。

9月18日 下院の承認に続いてスペイン上院 (元老院) もゴンサレス候補をベネズエラの当選大統領と認識するよう要請する決議を承認。

同時に「人道に対する罪を犯した疑惑がある」との理由で、マドゥロ大統領を指名手配するよう国際刑事裁判所に要請するよう求めた。

現在のスペイン議会は、下院・上院ともに PP が多数派を占めている。上院についても、PP が主導し、承認された。253票のうち賛成が149票、反対が102票、棄権が2票だった。

なお、スペイン下院の時と同じように、今回の決定は法的拘束力が無く、サンチェス政権は上院の要請に従う法的義務はない。

MCM 氏はスペイン上院の決定に感謝の意を表明。

「ベネズエラ国民の側につき、真の民意と国民主権を尊重し、ゴンサレス氏の当選を認識してくれたスペイン上院に感謝の意を示す」と投稿した。

「検察庁 亜ミレイ大統領、亜治安相を指名手配」

タレク・ウィリアム・サアブ検事総長は、「Emtrasur Cargo」の飛行機 Boeing 747 型機の押収に関与したとして、アルゼンチンのハビエル・ミレイ大統領および Patricia Bullrich 治安相を指名手配にかけると発表した。

「Emtrasur Cargo」はベネズエラ国営航空会社「Conviasa」の子会社で、航空貨物の運搬を行っている会社。

Boeing 747 型機は、イランのテロ組織「イラン革命防衛隊」と関係しているとの疑惑を受けて、2022年6月にアルゼンチンのコルドバ空港で移動ができない状態になった（[「ウィークリーレポート No.259」](#)）。

その後、2024年2月にアルゼンチンから米国に引き渡され、同機体は破壊された（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1024」](#) [「No.1031」](#)）。

アルゼンチンでは、2023年12月にミレイ政権が発足し、親米政権になったことで、米国への引き渡しが実現したとされており、マドゥロ政権はミレイ政権を「泥棒」と批判していた。

サアブ検事総長は、本件について「無罪のまま放置することは出来ない」と説明。指名手配にかけるとを正当化した。

アルゼンチン政府は今回の発表に反応。

マドゥロ政権によるミレイ大統領指名手配の要請を拒絶し、事実に基づかない批判であり、政治的な理由による指名手配と訴えた。

「ペトロ大統領 ELN との和平交渉無期限停止」

9月18日 コロンビアのペトロ政権は、コロンビア系ゲリラ組織「国民解放戦線（ELN）」との和平協議を無期限で停止すると発表した。

理由は、ELN 構成員によるアラウカ県の Puerto Jordán 陸軍施設への攻撃。この攻撃により軍人2名が死亡、27名が負傷したという。

ペトロ政権の交渉団は

「本日、対話プロセスは延期になった」「対話の継続性が著しく毀損された」「ELN が和平に対して明確な意思表示をした場合のみ、対話の継続性を回復することが出来る」と発表した。

マドゥロ政権、キューバ政府らの仲裁の下で、ELN とペトロ政権の和平交渉は2022年11月に始まった。

しかし、24年3月にペトロ政権がエクアドルと国境を接するナリーニョ県で、「コムネロス・デル・スール」と呼ばれる ELN の一派との地域対話を承認。

「コムネロス・デル・スール」は ELN から分立したグループだったこともあり、ELN が「コムネロス・デル・スール」との対話を停止するようペトロ政権に要請。

また、ELN をテロリストグループリストから外すよう要請していたが、これらの要請が受け入れられていないこともあり、対話が危機に瀕していた。

経 済**「インド大使 マドゥロ政権外交官と面談」**

マドゥロ政権の Tatiana Pugh アジア・中東オセアニア担当次官は、Shri P. K. Ashok Babu 在ベネズエラ・インド代表大使と面談。

両国の友好関係、農業・医療・文化・エネルギー戦略関係の強化について意見交換を行った。

具体的な合意事項は無かったが、重要なのは欧米がマドゥロ政権への批判を強める中、インド政府がマドゥロ政権閣僚と面談している点だろう。

インドは、ベネズエラの大統領選の当選者については特段の発表はしていないが、基本的にはマドゥロ政権をベネズエラ政府と認識し、関係強化を進めている。



（写真） Ultimas Noticias

“Babu 在ベネズエラ・インド代表大使（右）と面談する Pugh アジア・中東オセアニア担当次官（左）”

「国会 中国投資保護法の第1セッション承認」

与党国会は、「ベネズエラ中国投資保護・承認法案」の第1セッションを承認した。

国会の「国家開発・経済金融委員会」のヘスス・ファリア議員によると、同法案は中国企業に安全かつ信頼をもってベネズエラに投資をしてもらうことを目的としているという。

この法律によって、中国企業の投資が促進され、輸出が振興され、ベネズエラ経済が発展することになると意欲を示した。

国会で第2セッションが承認され、マドゥロ大統領が法案に署名をし、官報で公布されることで、同法律が施行されることになる。

2024年9月19日（木曜）

政治

「EU 議会 ゴンサレス候補の当選を承認

～国会 EU に関する議題をキャンセル～」

9月19日 EU 議会は、エドムンド・ゴンサレス候補が民主的に選ばれた正当なベネズエラ大統領と認識することを承認した。

同議論は、EU 議会議員の賛成票309票、反対票201票、棄権12票で承認された。

同時に、抗議行動で民衆を抑圧した人道に対する犯罪の容疑で、マドゥロ大統領を拘束するよう求める声明を承認した。

他、マリア・コリナ・マチャド氏について、ベネズエラ反政府派のリーダーであり、彼女を支持するとの決議も承認された。

ただし、この決議もスペイン議会と同様に法的な拘束力は無く、各国政府が議会の要請を受け入れる義務はない。

EU（特にスペイン）とマドゥロ政権との関係に亀裂が生じる中、ベネズエラの与党国会はEU 議会の決定について議論し、スペインとの関係断絶について議論するとの議題が予定していたが、当日になって同議題はキャンセルになった。

ロドリゲス議長は、キャンセルの理由について明確な説明をしておらず、次に同議題を扱う日程についても明言はしなかったが、EU 議会の決定について

「実質的なインパクトはない」「ファシスタ達により扇動された行動」と意に介さない姿勢を示した。

「ロドリゲス議長 合意書署名時の録音を公表か」

本稿「ゴンサレス候補 敗北認める合意書に署名？」で紹介した通り、ゴンサレス候補は自身の敗北を認める趣旨の合意書に強制的に署名させられたと主張している。

この主張について、マドゥロ政権は反発。ゴンサレス候補は、自身の意志で合意書に署名をしたと主張している。

ロドリゲス国会議長は、記者会見にて「もしあなた（ゴンサレス候補）が強要されたと主張するのであれば、私は当日の会話の録音を公表する」「もし24時間以内に発言を撤回しないようであれば、私は証拠としてあなたと面談した時の会話を公開する」と発表した。

結局、この発表から24時間以内にゴンサレス候補が発言を撤回することはなかった。

これを受けて、9月19日にロドリゲス議長は「我々は2つのことを期待している」「1つ目は、自身の発言を冗談だと説明すること」「2つ目は、合意した約束を果たすこと」「音声を確認すれば、ゴンサレス候補との面談は脅迫的な雰囲気ではなかったし、強要するようなこともなかったことが分かる」「彼や外国メディアや極右グループが主張するようなことは起きていないし、暴力的な状況もない」「むしろ対話を模索する雰囲気の中で面談を行った」と主張している。

また、ロドリゲス議長は「ゴンサレス氏の要請に基づいた2つ目の合意書を公開する」と発言。内容は、ゴンサレス氏の私財・住居・自動車などの保護に関するものだという。

他、録音の中には、ゴンサレス候補がMCM氏による暴力的な計画に加担したことを認める発言も収められているという。

「セバジヨス元内務司法相 正式に在中国大使」

前号「[ベネズエラ・トゥデイ No.1117](#)」にて、セバジヨス元内務司法相が在中国ベネズエラ代表大使に任命されるとの噂について紹介したが、この噂は事実だったようだ。

9月17日 マドゥロ大統領は国会に対して、レミヒオ・セバジヨス元内務司法相を在中国ベネズエラ代表大使に任命することを提案。9月19日に与党国会は同提案について全会一致で承認した。

セバジヨス氏は、直近まで内務司法相を務めていた人物で、それ以外に「国軍戦略オペレーション司令室（CoeFanb）」総司令官や国家保護・開発・計画担当副大統領など軍・政府の重要役職を歴任してきた。現在の在中国ベネズエラ代表大使は、Giuseppe Yoffreda Yorio氏で元在カタール・ベネズエラ代表大使。一般的に見れば、セバジヨス氏の人事異動は降格と言うことになるだろう。

経 済

「デルシー副大統領 非石油部門輸出の責任者

～輸出組織代表はカベジヨ内務司法相の娘～

9月19日 マドゥロ大統領は、ラグアイラ州で開催された「輸出振興 Expo」に出席。

非石油部門の輸出振興責任者に、デルシー・ロドリゲス副大統領を任命した。

ロドリゲス副大統領は、石油相を兼任しており、非石油部門の輸出責任者も兼任することで、実質的に輸出部門全体の統括者になったと言える。

また、マドゥロ大統領は「ベネズエラ輸出振興機関」の新設を発表。Daniela Cabello 氏（下写真の女性）を代表に任命した。なお、Daniela Cabello 氏は、ディオスダード・カベジヨ内務司法相の娘である。

マドゥロ大統領は、「ベネズエラ輸出振興機関は、ベネズエラ産の製品の輸出多角化のために調査を行う。我が国には大きな輸出潜在性がある」とコメント。

全ての経済関係者と協議を行い、30日以内に輸出窓口の一元化を実現するよう命じた。

他、マドゥロ大統領は過去ベネズエラの外貨割り当ての管理をしていた政府組織「Cencoex (旧 CADIVI)」について「役割を終えた」として Cencoex の解体令に署名した。



(写真) 国営放送局 VTV

「Fedecamaras 24年 GDP 成長率を下方修正」

「ベネズエラ経団連 (Fedecamaras)」は、2024年の経済成長率を4.2%増に下方修正した。

2024年3月時点の予想では8.0%増としており、下方修正にはなるが、引き続きプラスは維持する見通しを示している。

Fedecamaras が加盟企業を対象に行ったアンケート調査（24年Q2）によると、事業の阻害要因として「融資不足」「政治情勢」「司法への不審」「公共サービスの停止」などが挙げられている。

「製造業」「通信」「その他サービス」「商業」「農業」は前回（24年Q1）の調査よりも事業環境が改善したとの回答が増えたが、「観光」「建設」「不動産」などは前回調査よりも事業環境が悪化したと回答している。

なお、民間企業労働者への給料平均は月額183ドル。24年第1四半期の調査よりも1.7%増えたという。

社 会

「カラカスの自動車強盗団逮捕 犯行は主に日中」

「犯罪科学捜査班 (Cicpc)」は、カラカスを拠点に自動車の窃盗を生業としているグループを摘発したと発表した。Cicpcによると、同グループは自動車を解体して部品として販売していたという。

ドグラス・リコ Cicpc 班長によると、逮捕したのは5名。スクレ地区 La Vega および El Paraiso で逮捕した。

同グループは、主に昼12時～午後6時の間に活動しており、1人で行動している人やタクシー運転手を狙っていたという。

自動車窃盗に当たり、運転手を拳銃で脅し、所持品を強奪するなどもしていたという。

以上